



### 夏の学校林活動

8月27日（木曜日）、中茶安別小中学校の学校林「るんるんフオレスト」で、夏の「学校林活動」が開催され、当センターは同校と連携して、新型コロナウイルス感染症と熱中症予防の対策を施し、活動を支援しました。

まず始めに、当センターから活動に当たっての注意事項を説明し、3班で「ペットボトルでツリーシェルターを作ろう！」を行いました。これは昨年の5月に、学校林の伐採跡地に植樹した広葉樹が、見当たらなくなったことから、原因と対策を考えるために取組んだもので、こ



▽エゾシカ被害の説明を聞く様子



▽ペットボトルを組み立てている様子



▽ドローンによる集合写真



▽ドローンクイズの様子



▽ドローンの説明を聞く様子

こにどのような野生生物が来ているか、また、ほ乳類による森林被害の特徴を説明しました。その後、ペットボトルでツリーシェルターを作り被覆したところ、上級生は下級生のお世話をする等、微笑ましい光景も見られました。「ドローンってなんだろう？」では、ドローン（小型無人航空機）を国有林ではどのように活用しているか、また、酪農でも活用されていること等を説明した後、クイズを行いました。知識を深めました。最後は、ドローンを飛行させ上空からの撮影を行ったところ、学校林をバックにとっても良い集合写真となりました。

この体験を機に、ドローンの活用に興味を持ち、将来、ドローン活用のマスターが誕生してくれるといいなと思います。残暑の中での活動となりましたが、「春の活動」が、新型コロナウイルス感染症のため中止となったこともあり、終始、子どもたちは楽しそうに取組んでいました。また、当日は北海道教育大学釧路校の学生2名が見学を訪れ、子どもたちと一緒にツリーシェルターの被覆等を行う等、普段と違う活動となりました。



心地よい汗を流しました

6月24日（水曜日）、雷別国有林（標茶町雷別）で、第1回「雷別ドングリ倶楽部」を開催しました。

この催しは、高齢級のトドマツ人工林が、立ち枯れしてしまう気象害に遭い、笹地となった雷別国有林をフィールドとして、平成19年7月からボランティアの方々と協働で、森林再生（自然再生）に取り組んでいるものです。

今回は、ミズナラ・ヤチダモ・ハルニレ・カツラを合計100本植樹するとともに、野生生物から植栽木を保護するため、保護管（ツリーシールド）で被覆しました。



▽植樹指導を聞く会員の様子



▽植樹の様子



▽保護管被覆の様子

まず始めに、当センターから活動内容や注意事項等を説明した後、会員の方々は、それぞれスコップや鋏を持ち植樹箇所へ移動しました。

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、マスクをしていることもあり、作業するには少し息苦しい様子でしたが、会員の方々は声を掛け合いながら協力し、慣れた手つきで次々と植えていきました。会員の方からは、「次回も参加したい。」や「成長が楽しみ。」等の声があり、有意義な一日となりました。

前日までの数日間、雨模様が続いており、行事が開催できるか危惧していましたが、当センター職員が作

った「てるてる坊主」のおかげなのか、当日は晴天となりました。

新たな実施計画を議論

9月1日（火曜日）、釧路湿原の保全や再生に取り組む釧路湿原自然再生協議会が、新型コロナウイルス感染症の対策を施し、第26回目の協議会を開催しました。

当日は、協議会構成員の公募結果が報告されるとともに、当センターの森林再生の取組状況を含めて、各小委員会から報告があり意見交換が行われました。また、環境教育や市民参加の普及・啓発の方針となる「第4期釧路湿原自然再生普及行動計画」とサケ類の個体数の回復のため、釧路川支流に魚道を整備する「釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画」が議論され、それぞれ承認されました。



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号

【IP】050-3160-5787 【TEL】0154-44-0533 【FAX】0154-41-7305

【E-mail】h\_kushiro\_f@maff.go.jp

【URL】[http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro\\_fc/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html)



当センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林を主な活動区域として、フィールドの特徴を踏まえて、教育関係者、ボランティア団体・地域住民、企業、行政機関等の活動支援や技術指導を行っています。